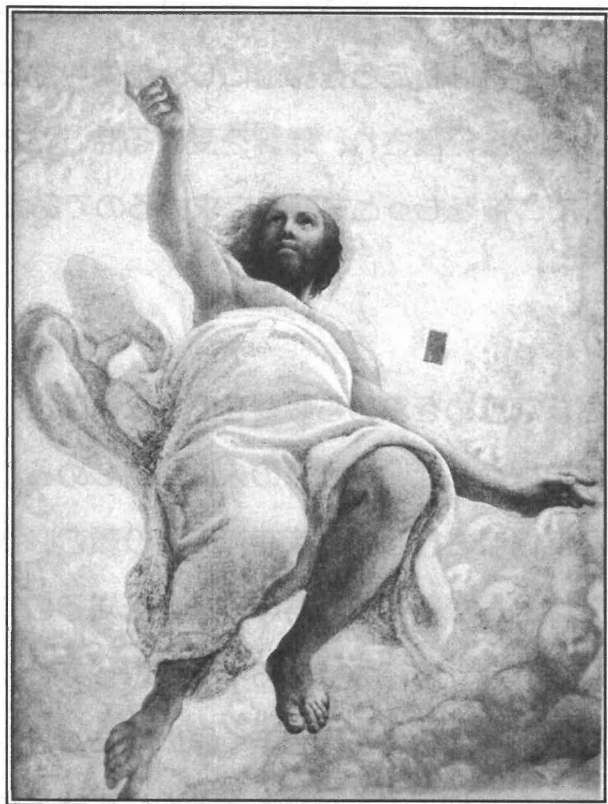


2009年(平成21)5月

カルメル  
**霊性センターニュース**



コレッジョ: 主の昇天

**243号**

# DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——

## 第一巻

### 第12章 患難の利益

#### 1 さすらい人

ときどきの苦しみや患難にあうのは、私たちにとってよいことである。なぜなら、自分がこの世をさすらう人間であること、この世のどんなものも頼りにならないことを思い起こさせるからである。ときどき人から反対され、よい意向や行為が誤解され、または十分に理解されないのもよいことである。それは私たちを謙虚にし、虚栄心から守るからである。私たちは、人から軽蔑され、悪評を受ける時、私たちの内部におられる証人として、神をもっとも熱心に求めるのである。

#### 2 神は私たちの支え

人は、人間からのさまざまな慰めを求める必要を感じないほど、強く神のうちに根を張らなければならない。善意の人は、苦しめられ、誘惑され、よこしまな考えに悩まされる時、まず神により頼む必要を痛感し、神の助けなくしてはどんな善も成し得ないことを知るのである。その時こそ、悲しみ嘆き、今、忍びつつある不幸を思って祈る。またその時、もはやこれ以上生き長らえるのを辛く思い（二コリント 1・8 参照）、「肉体の束縛を断ち切ってキリストとともに生きるために」（フィリピ 1・23）死が訪れることを望む。またその時、完全な安らぎと、満ち足りた平和はこの世にないことを、はっきりと知るのである。

心の泉





## 聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 5 -

マリアさまのもとで教えていただきましょう

夜の闇のなかで

ひたすら信じ

期待はずれな現実にもかかわらず

希望し

常に 愛することを

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd—



ファチマの聖母

ご復活の祝日に始まる復活節は、自然界もちょうど一斉にいのちの賛歌を歌いはじめる頃でもあります。死と罪への真の勝利、キリストのいのちの勝利を祝うのには何と適した季節なのでしょう。何もなかったような土から日に日に新芽が伸びてゆきます。寒い冬の間枯れてしまっていたような木々が春の息吹に芽を吹き出します。やがてつぼみを膨らませ、色鮮やかな花が開花し、まさに「いのちの祭り」が繰り広げられることとなります。

大自然の中で、大自然とともにわたしたちもこの復活節にキリストがわたしたちにもたらしてくださった真の「いのち」をさらに深く生きることができるよう。日々の汚れ、いたらなさ、失敗、罪の闇に覆われていても、覆われているからこそキリストの復活のいのちをさらに固く信じ、希望し、おん父の慈しみに信頼しつづけますように。わたしたちの人生の聖金曜日、土曜日という闇にあっても、おん子の十字架上の死の闇に覆われた聖金曜日、そしてすべてを失われた母マリアの聖土曜日の闇を思い起こしましょう。

「夜の闇のなかでひたすら信じ、期待はずれな現実にもかかわらず、希望し常に愛することをマリアさまのもとで教えていただきましょう。」

5月13日ファチマの聖母の祝日にあたって、母マリアの取り成しのいのりについてあらためて思い起こしてみるのもよいでしょう。

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(46)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

### 体操

体操は呼吸を助け、身体を柔軟にすることに役立ちます。どうして多くの人々は祈るために座ることを難しく感じるのでしょうか。というのは私たちの体は、柔軟になるように訓練されていないからです。固い身体は、苦痛をうみます。体操は、たいていの人がずっとやり続けることのできない活動の一つです。なぜなら、それは緊急のこととは思われないからです。そして遅かれ早かれやらなくなるので、私たちの怠慢の当然の結果として、健康問題やめんどろな問題として取り扱うのです。

体操は、深い呼吸をするために大いに役立ちます。呼吸が自然ならば、身体的に祈りたい気持ちになります。呼吸が不完全ならば、それは姿勢に影響するか、瞑想を妨害するかします。

体操をするために、私たちはこった装備をまったく必要としません。よい体操のプログラムとは、私たちが自分の家や部屋で、あるいは壁に囲まれた場所で行うことのできるものです。それは、早歩きや野外での手仕事や遊びや二三の単純なヨガ体操などでいいのです。これらすべての体操は、肺の呼吸能力を増大し、全身に酸素をいきとどかせ、体全体をリフレッシュすることができます。このような意味で良いそして規則的な体操が、祈りのために積極的に役立つということを、私たちは否定することができないのです。

### 匂いと呼吸の感覚を靈化すること

私たちが呼吸している空気は、聖なるものです。神は、その命を私たちの体の中へ吹き込むのです。私たちが、呼吸している空気に意識を集中するならば、この意識の集中を私たちの靈にまで拡大することができるのです。

匂いの感覚は、私たちが呼吸によって知覚している事柄に完全に意識を集中する時にのみ、靈化されるでしょう。私たちが花か香りを嗅ぐ時、すべてよいものは神から来ていることが心にとどまります。甘い香りは、鼻を通して知覚されて終わるのではなく、さらに私たちがその匂いの靈的部分に触れ、私たちの靈をその部分へ

と呼び覚ますことのできる知性や意志にまでメッセージを伝えます。芳香への愛着は、貧しい惨めな人々への嫌悪を生み出すものであってはなりません。彼らもまた、神によって創造されたのです。私たちは彼らを愛し、尊敬しなければなりません。イエスはいつも貧しい人々を愛し、彼らを大切にしました。

私たちの呼吸に注意を集中することは、この感覚を靈化する他の方法です。神は私たちの中へ息を吹き込み、私たちは神を通して生き続けるのです。私たちが呼吸をやめる時、私たちは生きることをやめます。命は、直接、呼吸とつながっています。私たちが深く呼吸すればするほど、私たちの意識の集中は深くなり、この意識の集中は、私たちが靈に触れるように導いてくれることでしょう。

## 練習 1

さて S・N・ゲンカ\*の練習は、注目に値します。

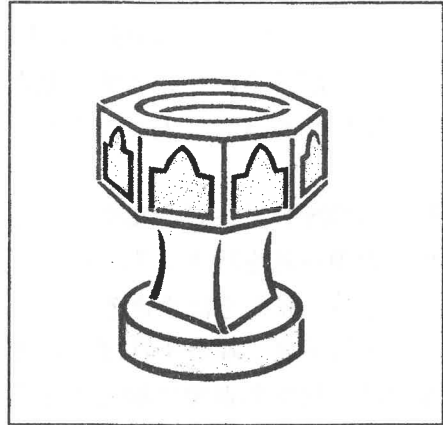
呼吸に意識を集中する実践によって、私たちは仏陀によって描写された四つの正しい努力（悪い状態を防ぐこと、それが起こったらすぐにそれを捨てること、まったき状態を生み出すこと、それを保つこと）すべてを実践するのです。私たちは坐り、いかなる考えも割り込ませずに、息に注意を集中します。そうすることによって、自己集中のまったき状態を作り出し、保つのです。意識の散漫やぼんやりした状態に陥ること、現実の視点を失うことから自分を守ります。もしある考えが起こってきたら、それを追わず、ふたたび息に意識を集中することにもどります。呼吸に意識を固定することは、現在の瞬間に対する集中を高めます。私たちは、意識をより簡単に固定するために、意図的に、少し強く呼吸することから始めます。呼吸への集中がはっきりとしつかりしたものとなるやいなや、自然に呼吸を、強くか弱くか、深くか浅くか、長くか短くか、早くか遅くか、続けるようにします。呼吸をコントロールする努力はしません。努力は、呼吸に意識を集中するだけです。私たちの精神が呼吸に完全に集中した時、渴望や嫌悪や無視から自由になっています。しかし、その浄化された状態がどんなに短くとも、それは非常に力強いものです。なぜなら、それは、その人のすべての過去のことがらに注意を促してくるからです。呼吸への意識集中を実践する時、私たちは精神を浄化し、真の自由へと前進し始めているのです。（続）

\*S. N. Goenka, *Vispasana Meditation*, Harper and Row, New York 1987, P. 74

（九里 彰訳）

## ヘンリ・ナーウエンの

### 旅路の糧 (121)



#### 共同体への道である洗礼

洗礼は、霊的な自由への道以上のものです。それは、共同体への道でもあります。子供であれ成人であれ、人に洗礼を授けることは、信仰の共同体へその人を受け入れることなのです。洗礼によって上から再生し、神の息子、神の娘として生きるように呼ばれた人々は、霊的家族の一員、キリストの生ける体の一肢体として共に属するのです。人々に洗礼を授ける時、私たちは、彼らを神のこの家族へと迎え入れ、彼らがキリストと同じように命の完全な成熟へと成長するように、彼らを導き、支え、養成するのです。

(0928)

#### 誓約への呼びかけである洗礼

洗礼は、神の子の自由への道として、また共同体の命への道として、個人的な誓約を要求します。この秘跡には魔術的なものとか無意識的なものは何也没有ありません。だれかが「私は、父と子と聖霊のみ名によってあなたに洗礼を授けます」と言いながら、水を私たちに注いだことは、私たちが洗礼を受けた者としての霊的真理を、あらゆる可能な仕方で主張し、また繰り返し主張することをいとわない時にのみ、永続的な意味を持ちます。

この意味で、洗礼は、受洗者の代父母や、受洗者自身に対して、暗い世界の真ただ中で光を、また死を宿す社会の真ただ中で命を、絶えず選び取るよう招いています。

(0929)

九里 彰訳



## 復活節第4主日

“わたしは良い羊飼いです” (ヨハネ10:11-18)

今日の福音は良い羊飼いです。イエスについて語っています。羊の世話をすることは深い愛情と細心の注意を必要とする命がけの仕事です。イエスはイエスご自身を良い羊飼いだと言われます。その通り！主は良い羊飼いです。主はわたしたち一人ひとりを絶えず見守り、わたしたちの声を聴き、わたしたちの些細な行動や態度を見逃されません。羊の所有者としてではなく羊飼いです。言い換えれば主ご自身のものとして主に委ねきっている羊の世話をしてくださるのです。イエスはご自身を羊と同一のものとみなされ、羊の命を守られます。イエスは、わたしたちの罪を全て担って、本当に、自分自身のものとしては罪しか持たないわたしたちを担って、屠り場に引いていかれる犠牲ではないのですか？

自分の羊を持たない雇い人はただお金のために働きます。彼は彼を信頼している羊よりもお金を大切にします。彼にとって羊の命を守ることは二の次です。良い羊飼いは大いに違い、自分を羊の上に立つものと思込んでいます。彼は羊と同一のものであることを望みません。彼は羊を愛さず、彼自身とお金だけを大切にします。

イエスは良い羊飼いです。イエスは彼の羊であるわたしたち一人ひとりのことをよく知り、わたしたち一人ひとりが誰であるかをご存知です。この主の知識は、全て天国と永遠の命に向けられている知識です。それは最も聖なる三位一体のうちに父と子を結んでいる知識と全く同じものです。“わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。”(ヨハネ:10-14・15) ですから、イエスがわたしたちを知っておられるのは、愛においてなのです。この同じ愛において聖なる三位一体の三つのペルソナは結ばれています。イエスは“わたしは羊のために命を捨てる。”(ヨハネ10:15) と言ってこのことを確証されます。

主イエスはわたしたち皆がイエスの内に一つになるように望まれます。聖三位一体の三つのペルソナが一つであるように、全ての人が互いに平和と愛の内に結ばれて一つになることを望まれます。すべてを一つになさるのは主ご自身です。“羊はわたしの声を聞き分ける。”(ヨハネ10:13) と言っておられますから。これは人が神のみことばを聴くこと、人のうちにおられるキリストの命のみことばを聴くことです。キリストのうちに人となられた神のみことばによって、神を信じるすべての人は一つになります。これは神のみことばを信じる人たちの貢献によるものでしょう。何故ならそれを聴くためには、絶対に信仰が必要だからです。神を信じる人だけが愛である神のみことばを聴くことが出来、これは死ぬまで忠実に神を信じて生きる人たちに約束された、永遠の遺産なのです。

(Sr. Paulina)

復活節第5主日 ヨハネ 15, 1-8

「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」(ヨハネ 15, 5)

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。・・・わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる」。「枝のように外に投げ捨てられる」と言われますが、誰によって投げ捨てられるのかは明確には言われていません。手入れをなさる農夫である御父によってでしょうか。そうではないようです。誰かによってではなく、実に、自分自身で、外に身を投げ出してしまう、イエスの命が循環しているぶどうの木の外に自分自身で飛び出してしまう、言ってみれば、自分自身で水から飛び出す魚のように振舞っているのです。そこに待っているものは、枯死、死です。「そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう」。集め、火に投げ入れ焼いてしまうのも、御父ではありません。直訳すれば、「人々は、それらを集め、火に投げ入れる。そして、それは、燃えつきる」となるのですが、人が、自分の意思で、命の樹液の循環の枠から外に飛び出し、枯死し、焼かれてしまう結果になると言ってよいのです。「自業自得」だと言うことでしょうか。

しかし、御父は、このわたしたちの「自業自得」を遠くから見捨てておこうとはなさらなかったのです。「自業自得」の呪縛からわたしたちを救い出すために、御父は御独り子をお与えになり、「みことば」は人の子となり、自ら苦しみの中に身を投じられました、その極みは、十字架の死であったのですが、十字架の死を前にしてイエスが言われています。「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう」(ヨハネ 12, 32)。「上げられる」とは、十字架の上にてあり、また復活の栄光の中にでもあります。そして、十字架も、復活も、神の救いの計画から自らを切り離し、離れて行きつつあるわたしたちを、引き寄せるためでした。

「わたしの話した言葉によって、あなたがたはすでに清くなっている」。イエスの受肉、十字架の死、復活そのものが、イエスの話したお言葉に他ならないのです。このイエスに信じることによってのみ、わたしたちは、命の循環に引き寄せられ、永遠につながり続けることができるのです。そして、実を豊かに結ぶことも。

ルカ 渡辺幹夫

復活節第6主日 (B)

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたたちを愛して来た。

わたしの愛に留まりなさい。」 (ヨハネ15:9~17)

本日の福音書のことばは、ぶどうの木とその枝に関する先週の日曜日の福音のことばのすぐあとに続き、それを展開するものです。ぶどうの枝はぶどうの木から生命を受け、枝は生き、成長し、実を結ぶことを示しています—すなわち、それはイエスの愛に留まることです (10節)。

イエスの愛に留まるには神のおきてを遵守する必要があります。わたしたちはまず神はわたしたちの先生であること、主は神であること、わたしたちの頭としてわたしたちに命ずるのは神であることを認めなければなりません。父の愛における主との交わりは、父の最高の意志と教会を通して伝えられる父の命令への従順によります。

愛の最高の証明は、愛する人たちのために自分のいのちを与えることです。主はわたしたちより前にこのことをおこないました、そしてもし必要ならば同じことをするようにわたしたちを招いておられます。イエスは御父を永遠に愛していらっしやるが故に、そして御父においてわたしたちを永久に愛してくださっているが故に、十字架の試練を忍ばれました。しかしこの愛は十字架の木にはりつけにならなければなりませんでした。それは創造のときには人間において完全なものだった神のイメージを原罪が傷つけたからです。アダムの子以来、御父と人間の愛が完全なものであるためには、必ずカルワリオの十字架を通らねばなりません。結局、愛が完全な幸福を達成するのは十字架そのものにおいてです。「患難がおまえにとって甘美となり、またイエス・キリストへの愛のために美味なものとなるなら、その時こそ自分は幸福だと考えよ。なぜなら、この地上に楽園見いだしたからである。」 (キリストに倣いて、2巻、12章)

神は愛ですから、愛は神の家族である人間の特徴とならなければなりません。神の愛は私たちお互いの愛の「なぜ」と「どのようにして」です。私たちの自由に翼を与えるのは愛です。自分自身と同様に私たちの親類や友人の生活を富ますために、御父の子供として私たちは御父の愛を表わさなければなりません—仕える愛、他者の幸福を求め、世界の中で神の恩寵の流れ道となるのは愛です。これは人生における私たちの任務であり、他者に向けて率先していくべき行動です。ミサで祝う愛を私たちの生活の中で表わせるよう助けてくださるよう神に願いましょう。

(Sr. Paulina)

主の昇天 マルコ 16, 15-20

「主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた」  
(マルコ 16, 19)

今日、わたしたちは、主の御昇天を祝います。主イエスは、この地上の生活、身体と精神のすべての次元での生活の中で、罪に支配され、罪に傾斜しているわたしたちと同じ身体を持って、闇の世界との戦いに挑戦し、勝利を得られました。これは、まさに、聖パウロが「罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです」(ローマ 8, 3)と書いているところです。

わたしたちが毎日体験する現実の身体は、自己保存の本能、他人を押しつけてでも自分の欲望を満たすことに傾いた罪深い肉の姿ですが、神の御手から創造されたままの純真な身体は、そうではありませんでした。多くの人々と、兄弟的愛の交わり、出会いを結ぶ接点、愛を実際に生き、現実的、具体的なものとする窓口でした。神の御子が受肉によって身体を受けたのも、この神のご計画の中での身体を回復するためであったと言えます。それで、わたしたちと同じ体を持って、十字架の死にいたるまで御父に従うものとなりました。つまり、御父のこの御計画を余すところなく実現するものとなりましたのです。御昇天は、御父がイエスの体と精神に生きた生涯のすべてを承認し、これこそ「わたしの愛する子」と宣言されておられる最高の承認に他なりません。御父のわたしたち人類へのご計画が成就され、イエスがこの成就への道をすべての人ために開き、聖霊は力強くわたしたち一人一人をこの歩みで支えていてくださるのです。

さて、今日の福音を見ますと、一つの三角形が現れていることに気がきます。この三角形の頂点は、「主イエスは、・・・天にあげられ、神の右の座に着かれた」にあります。三角形の二つの横の辺にあたるものは、福音の前半と後半の部分です。最初の部分では、「全世界に言って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」とのイエスの命令、派遣です。後半の部分は、この命令の弟子たちの実行です。「弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した」。そして、三角形の底辺ですべてを支えているのは、「主は彼らと共に働き」です。弟子たち、そして、わたしたちも、この三角形の中で今日の身体の中での命を生きています。

ルカ 渡辺幹夫

## 聖霊降臨の主日 (B)

「あなたたちに平安があるように」 (ヨハネ 20 : 19 ~ 23)

聖霊降臨の日に使徒たちのところにイエスが現れたできごとの効果は、実にすばらしいものでした。イエスが現れる前には弟子たちは鍵をかけて隠れ、ほとんど全ての人がユダヤ人を恐れていました。彼らは取り乱し、希望を失い、自分たちの先生の死をひどく悲しんでいました。彼らの真ん中にイエスが現れたことで、弟子たちの精神は高められ、失いかかっていた希望は再び生き生きとなり、イエスの弟子となる新たな意志が弟子たちに注ぎ込まれました。この変化は、「弟子たちは主を見て喜んだ」ということばに示されています。イエスが来られる前(19節)とイエスが来られてから(20節)の感情、性質、気持ちの対比は認めざるをえません。新たな生命、新たな希望、新たな洞察力、新たな生命感、新たな進展する活力など、これらは復活に対する信仰の大きな効果です。

イエスは再び弟子たちに「あなたたちに平安があるように」(21節)と挨拶されました。このときのイエスの平和の挨拶は、「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたたちを遣わす」(21節)という課題と使命をもってされました。御父から受けた使命を、イエスは弟子たちに渡しました。弟子たちはイエスが始めたことを全て続けることとなります。それではこの使命とはどのようなものでしょうか？ 何に向かって弟子たちは遣わされるのでしょうか？ どのようにしてこの使命に忠実であるか確かめられるのでしょうか？ イエスの教え、説教、癒し、そして、イエスのご受難、死、ご復活により人類と個人の罪が許されたことについてまで、これら全てはイエスの全生涯の物語の中に、また全生涯の物語を通して、答えられています。許しはイエスの使命の中心であり、いちばん大切なものです。御父がイエスを遣わしたように、その使命は弟子たちによって継続される必要があり、同様に同じ使命をイエスは弟子たちに渡されています。

今週の日曜日の福音は、まことの許しから来る平和についてです。復活された主によって全ての信者たちに与えられるのは平和です。それはひとつの握手とか抱擁などを通して成し遂げられる平和ではありません。まして契約にサインするようなことで成し遂げられるものではありません。それは聖霊の働きを通して認めることのできる平和です。私たちは皆主イエス・キリストが息を吹き込む聖霊を受け取らなければなりません。

復活された主の平和は自分の生き方として和解し許す場合にのみ成し遂げられるものです。ここで問題になるのは単なる「許して忘れる」態度ではなく、自分の生活と態度の中にイエスの許しと神の愛を写し出すことにあります。(Sr. Paulina)

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (25)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 十字架のヨハネの決定的な召命 (2)

ポケットにこの答えを入れて、マセオ修士は、聖クララの答えを受け取りにでかけました。聖女とその姉妹たちの答えは、シルヴェストレ修士の答えと同じでした。

それからマセオ修士は聖フランシスコの前に行きました。聖人は彼を本当にあたたかな愛で迎え、彼の足を洗い、食事の用意をし、食事の後、森に呼びました。そこで彼の前にひざまずき、フードを取り、両腕を交差し、彼にたずねました。

「私の主、イエスキリストが命じられておられることは、何ですか」。

マセオ修士は答えました。

「シルヴェストレ修士にも、クララ姉妹やその他の姉妹たちにも、主はお答えになり、あなたがこの世へ説教しに出かけることが主のみ旨であることを啓示されました。なぜなら、あなたは自分のためだけではなく、他の人々の救いのためにも選ばれたからです」。

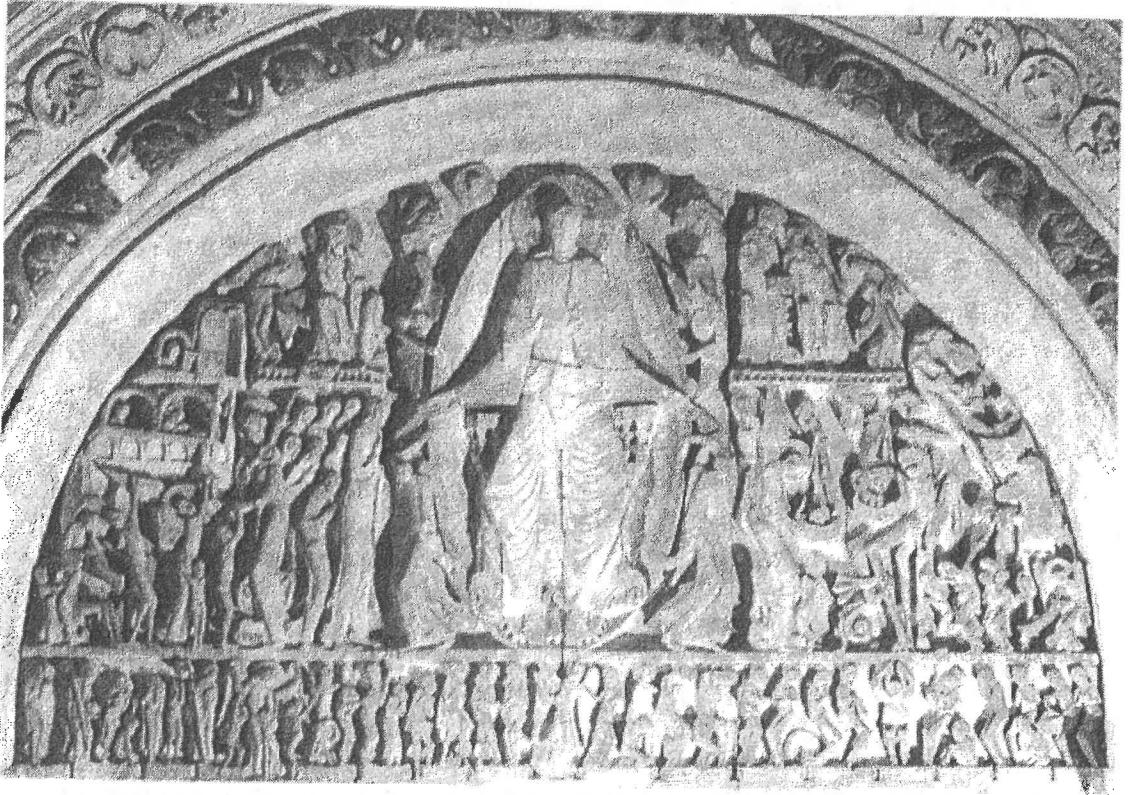
フランシスコは、この答えを聞き、それを通して、キリストのみ旨を知ると、大変な熱情に満たされて立ちあがり、こう言いました。

「神の名によって行きましょう」。

十字架の聖ヨハネの場合、だれが聖クララであるかを、私たちはすでに知っています。それは、イエスの聖テレジア以外の何者でもありませんでした。彼女を、昔の歴史家は、「天的な交渉者」とか「熟練した宝石商」と呼んでいました。「宝石商」とは、宝石を見つけ、鑑定する熟練した専門家という意味です。

彼は、決定的な召命の識別の時、彼の聖クララのところへ行きました。すなわち、彼はその時、人生の岐路にいたのです。というのも、五年間過ごした履足カルメル会の最初の召命を捨て、カルトゥージオ会の召命にちょうど応えようとしていたからです。

(続く)



AUTUN (Saône-et-Loire)  
Ville romaine riche de son architecture  
et de ses 2000 ans d'Histoire.  
De nombreuses traces du passé.  
Cathédrale d'Autun "St-Lazare" XII<sup>e</sup>-XV<sup>e</sup>.  
Le tympan.  
Le Christ en gloire  
(œuvre du sculpteur Gislebertus)

## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 20. 福者 三位一体のエリザベット (1880-1906) --- その5

エリザベット・カテーは、1880年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起こしやすい性質であったが、初聖体を受けてからは、非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また、中流階級であった彼女の家族は、パーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとられられ、彼のことしか考えられなかった。21歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会后間もなく、エリザベットは病気になる、胃疾患(現在では、アジソン病であったと考えられている)のため5年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、霊的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したのものの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを「Laudem Gloriam(栄光の賛美)」であると言っていた。1906年11月9日に帰天。最後のことばは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。



福者 三位一体のエリザベット (23歳)



— 祈り —

おお、忠実なおとめよ、あなたが「フィアット」を発せられたとき、すべての神秘的な中でも最も偉大な神秘が、あなたのうちに成し遂げられました。あなたは、どれほどの平和、どれほどの潜心のうちに、生き、行動なさったことでしょうか。どうか私にお教えください。私の最もささやかな行いまでも聖化することを。愛徳が要求する時には、他者のために自分を使い尽くすことを。けれども、そのすべてのうちにあって、あなたのように、私のうちにおられる神を絶えず礼拝する者であることを。

聖霊降臨

あなたの純粋な燃える炎で  
聖霊よ、どうか私の靈魂を燃え立たせてくださいますように。  
神的愛で私の靈魂を焼き尽くしてください。  
おお、私が日毎に呼びかけるお方よ！

神の靈、きらめく光よ、  
あなたは、恵みで私を満らし、  
あなたの甘美さを満ちあふれさせてくださいます。  
私を燃やし、完全に無にしてください！

あなたは私に召命を与えてくださいます。  
おお、ですから、私を導いてください  
この親密な内的一致へと、  
私の望みである神のうちに全く沈んでいるこの命へと。

私の希望が、イエスのみにありますように。  
この世のただ中に生きている間、  
私があのお方だけを切望しますように。あのお方だけを見ますように。  
私の愛、私の神なる友であるあのお方を。

聖霊よ、善なるお方、至高の美よ！  
おお、あなたは、私の拝するお方、愛するお方。  
あなたの神的炎で焼き尽くしてください。  
この体、この心、この靈魂を！  
あなたのみ旨を行うことだけを望んでいる  
この三位一体の花嫁を！

(1898年3月29日の詩)

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(奉事カルメル会訳・編)

## てんや わんや

ただ今(3月下旬)、久が原本部修道院、ことに1階玄関付近工事中ですが、正面玄関に面して私が長年使用させて頂いた事務室にも、工事の手が伸びて「立ち退き」と言われ、これまたビックリ仰天。途端に大きな心配が波のように押し寄せてきました。今まで使用していた・また現在も使用している資料、教科書類、そして莫大なノート類、それらは皆、私の商売道具なのですが、一体これをどうやって動かしたらいいのだろう!! 一体どこへ納めることができるのだろう。現在使用中なので、まとめて物置の奥にしまうことは出来ないし。最近のご時世もあって、さすがに一般に呼びかけて、8日間の泊まり込みセッションはしないにしても、毎週1時間半のクラスを7とか8クラスもっているのですから、物置に仕舞い込むわけにもいきません。その他に、史学・哲学関係の書物・参考書・辞書類等々。また、何かの時に利用する絵画・お習字の各種材料・画用紙ならびにカラー模様つきの種々の用紙。そして、これがあれば何かの時に重宝する というような小物類などなど。えっ!! これらが全部3階の私の居室に……そんなに言われても到底入りきるものではないよ!! と一瞬戸惑いました。かろうじて、物運びに、椅子型の電動昇降機はあっても、人が一人坐れる位なのでとてもでないけれど、何十回も運ばなければならぬのです。やり始めても、量の多さに気持が暗くなってしまう。そこで考えたのは、“往きはこわいが帰りはよいよい”式に、帰りはゆっくりムードで、私自身はその椅子に乗って降りてくることにしました。“苦あれば楽あり”と言うように、いつも“心のお天気を保てるように!!” 全部運んでみて、今の私の居室は結局、寝室、兼事務室、兼物置場 ということなのでしょうか?! 今現在は、まるで避難民の生活みたいに整理のつかない部屋の中でその日暮らしをしています。今、一番感ずることは、あれは何処に入れたんだっけ と探すことしばし。年齢のせいもあって、アレを何処に収めたか忘れてしまい、再び物の山をくづして見たりもします。終戦後、東京裁判でアメリカ軍の裁判を受けた日本の高官が、問い詰められて“記憶にございません”と答えることがしばしばありましたが、私の場合、自分で片付けておきながら、あとから“記憶にございません”が沢山あって、なかなか仕事が進みません。歳をとって“環境が変わる”というのは、ほんとうに難しいこと。若いときの“適応”ということは、どこかで死んでしまったようですよ。

お告げのフランシスコ姉妹会 S r. 熊田 照子



早春の一日、春の風物詩として名高い伊豆稲取のつるし雛祭りをみました。ご存知の方が多いと思いますが、江戸時代から伝わっているそうで着物や帯の端切れで作った10センチほどの「桃飾り」と呼ばれるぬいぐるみなのですがうさぎ、小鳥、俵のねずみ、などの小さな動物たちや桜、桃、梅などの花々、唐辛子、茄子、いんげん豆などなどの野菜、果物の類が、それはそれは彩り鮮やかに愛らしいのです。定まった型紙があるらしく、その数は100を超えるそうです。これ等のひとつひとつに長寿、安産、魔除け、金運といった祈願が託されているのだといいます。

このぬいぐるみを赤い糸に縦にずらりと20個ほども結び並べたものを、竹ひごの丸い輪から数本吊るして雛壇の両脇に飾るのです。昔、娘が生まれても家が貧しくてお雛さまを買えない人たちが、手作りしてこのつるし雛を飾り、娘の成長を祈ったともきました。

決して広くはない祭りの会場に一歩足を踏み入れた時の驚きをどう云ったらいいでしょうか。四方八方余す所なく空間を埋め尽くしているおびただしい数の赤い連なり、明るい色彩の群舞に暫らくは目を奪われたまま茫然として立ちすくむ感じがありました。

やがて、目も気分も慣れてきて辺りを見まわせば、稲取の毎年の祭には桃飾りの全国コンクールが行われているらしく、会場には大賞、奨励賞、会長賞などの立て札があって、それこそ全国各地から集まってきているようでした。一心に気概を込めた作品なのでしょう。

つるし雛の連なりの大群をかき分けるようにして所々には私たちに馴染み深い雛壇もいくつか置いてあり、趣きのあるお雛さまが五段飾りに並べられ、中には段飾りではなくいかにも古めかしい風情の御所というのか内裏というのかいわゆる家の中に、お内裏様、官女、囃子たちがおいでになるという珍しい設えのものもありました。

このような会場をふらふらとさまよっているうちに、徐々に何ものかが全身を包み覆うかのような感覚、云ってみれば何やら精気にやられてしまうという感覚が生じ、息苦しささえ覚えてきたのです。上から吊るされている大量の桃飾りは単に製作品というにとどまらず、ひとつひとつから霊気ともいべきものが放出されていて、運針のひと針ひと針に込められた深い祈念の思いが部屋を満たしているかのように感じられたのです。

酩酊にも似た状態のまま、突如として私は聖書の詩篇を思い浮かべました。

あの150もの詩篇の林立、魂の深い嘆き、呼び求める切なさ、信頼と希望とよろこびと……。そのひとつひとつの声を身に負い、地上の苦しみの化身となって150篇の只中におられるお方。

不思議な事ですがこの時私は深い苦痛を思い、しかし同時に深い安堵を思いながら、人の祈り、願い、希求は、恐らくは魂から放たれたその時にもはや既にきき届けられているのだという確かな思いを得たのでした。

マリー・ノエルというフランスの詩人がいます。

若い時に知って以来、心の底から共鳴し魂の友と敬愛の念を抱いています。

暗夜の詩人と云われ、魂の闇の中で孤独と苦悩を味わいつくす詩が多くありますが、しかしそれ故にこそ私は希望の詩人であると思っています。

その中の一つ 「地を造られた神は 暗い夜 地がうめくのをおききになる」と始まる長い詩があります。魂を潤すことばが桃飾りのように連なります。

み子はいわれる お父さまわたしたちはいつねむれるのでしょうか  
かれらが苦しんでいますならわたしも一緒に苦しんでやるのです  
わたしはこの群れを背負ってやります 支えてやるつもりです  
血の流れる人間としてのわたしの手で 人間たちのあたまの重みを  
血管の根もとのところでわたしを傷つけてください  
流れ出す血のなかに苦しみの流れをききとるためです  
うつろっていく人間が魂に隠しもつ苦しみを  
大きくひらいたわたしの腕の中に 苦しみを抱いて彼等とわたしが  
重荷に息あえぐとき お父さま あなたの戸をひらいたままにして  
おいてください ここへ連れてきてやりたいからです  
この わびしくあわれな魂たちを こごえきった あわれなからだを  
大きい光を用意しておいてください 火を 安らぎを用意しておいて  
ください

明るい色彩の桃飾りの世界から魂の夜へとすべり落ちたことは、思いがけないことで自分ながら驚きました。

会場を一步出れば、外には確かな日常が在りました。観光客の声が華やき水平線かなたの水面は柔らかな陽にキラキラと輝やいて、潮風は清らかに頬を撫で、平和な穏やかな春の日の海辺でした。

# いのちの言葉 4月

目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。(マタイ24・42)

私たちは、「『後で』何か『素晴らしいこと』がやってくる」のを期待しながら、今現在の生活を、あまりよく生きていないことが多いのではないのでしょうか。

たしかに「後で」「素晴らしいこと」はやってくるかもしれませんが、それは、私たちが期待しているものとは違います。

まるで神から受けた本能のように、私たちは心のどこかで自分を満たしてくれる「誰か」や「何か」を待っています。それは、休日、自由な時間、特別な出会かもしれませんが、こうしたことも終わってしまうと、私たちの中には何か空しい気持ちが残ります。少なくとも、十分に満たされたとは言えない状態です。それで私たちは、いつも何かを待ちながら、確固としたもののないまま、単調なくりかえしの毎日に戻るのです。

人生の中で、あなたも含め誰一人、避けられないことがあります。それは、「私たちのもとに来られる主と、一対一で出会うこと」です。これこそ、私たちが無意識のうちに待ち望んでいる「素晴らしいこと」です。私たちは、幸せになるために造られましたが、完全な幸福をお与えになれるのは、主なる神だけだからです。

でも、あなたも私も目が閉ざされていて、この幸福を探しあてることができません。イエスはそれをご存じで、次のように忠告してくださいませ。

目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。

目覚めていなさい。注意していなさい。起きていなさい。

世の中には、不確実なことが多いのですが、一つだけ、確かなことがあります。「私たちはいつの日か死を迎える」ということです。キリスト者にとって、死は、私たちのもとに来られるキリストの前に出ることを意味します。

もしかしたら、あなたも、意識的に死を忘れようとしている一人かもしれません。その時を恐れて、まるで死が存在しないかのように生きているかもしれません。あなたを脅かす死が存在しないかのように、あなたは地上の生活にしがみついて生きているかもしれません。しかし、その時は訪れるでしょう。キリストは、必ず来られます。

目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。

この言葉を通して、イエスは終わりの日に、ご自分が来られることを教えておられます。イエスは、使徒たちを後にして天に昇られた時と同様、世に戻って来られるでしょう。

ただし、このみ言葉は、主が人間一人ひとりの人生の終わりにも訪れてくださることを伝えていますが、人が死を迎える時、その人にとって、この世の生活は終わりを告げます。

私たちには、キリストが今日来られるか、今晚か、明日か、あるいは一年後か、もっと先のことは、わかりません。ですから、目覚めている必要があります。いつかはわからなくても、自分の家に泥棒が来るとわかっているのならば、寝ずの番をするのと同じようなものです。

イエスが来られるというなら、地上の生活は過ぎ去る、ということです。もしそうなら、私たちは今の生活を軽んじるどころか、最大限に重視する必要があります。イエスとの出会いのため、私たちはふさわしい生活をしながら、自らを準備しなければなりません。

目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。

私たちも目覚めている必要があるでしょう。人生

は、平穏なことのくりかえしだけでなく、戦いもあります。性的な誘惑や虚栄心、暴力、金銭への執着などは、第一の敵です。

でも、私たちがいつも目覚めているなら、不意を襲われることはないでしょう。

愛する人は、しっかり目覚めています。目覚めていることは、愛の特徴の一つです。

誰かを愛するとき、人の心は相手を待って、いつも目覚めています。その人なしで過ごす時も、一分一分が、愛する相手のために存在します。

愛情豊かな妻が、不在の夫のために必要なものを準備する時、労苦をいとわず、すべてを夫のために行います。夫が家に着くと、妻は喜んで迎えますが、その挨拶には、夫のために一日中準備したことの喜びが込められています。

病気の子供に付き添いながら、合間に少し休みを取る母親もそうです。寝ている時も、母の心は目覚めています。

イエスを愛する人も、このように生き、すべてをイエスのために行います。毎瞬間イエスがお望みになることを果たしながら、み旨の中で彼と出会います。そして、やがて訪れる最後の日に、その人は、イエスとの荘厳な出会いを迎えるでしょう。

1974年11月3日のことです。ブラジル南部のサンタマリアの町で、250人の若者が参加した黙想会が終わりました。参加者の大部分が、ペロタスという町から来ていました。

最初のバスが、45人の若者を乗せて出発しました。バスの中は、彼らの歌声、あふれる喜び、イエスへの大きな愛でいっぱいでした。途中で、数人の少女のグループは、ロザリオの祈りを始め、苦しみと奥義を黙想しながら、自分たちが死の時まで神に忠実でいられるよう、聖母マリアに願っていました。

カーブにさしかかった時、故障が生じたバスは、50メートル下の谷に三転して、落ちました。6人の少女が亡くなりました。

生き残った一人は、後でこう言っていました。「死を間近に感じました。でも神様がおられたので、怖くはありませんでした。」

こう言った人もありました。「まわりがすべてめちゃくちゃな中、自分が動けると気づいた私は、空を見上げました。満天の星空でした。何人もの友達が傍らで息絶えて横たわっている中、私はひざまずき、祈りました。神様が私たちのそばにおられるのを感じました。」

亡くなった少女の一人、カルメン・レジーナの父親は、語りました。「生前あの子は、よく言っていました。『お父さん、死を迎えるのは、イエス様と

一緒にいられる所に行くことよ。だから、すばらしいことなのよ』と。」

**目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。**

ペロタスの少女たちは、愛を生きていたからこそ、目覚めていたのです。そして主が来られた時、彼女たちは喜んで主のもとに行きました。

キアラ・ルービック

\*フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのち言葉は、1978年12月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

毎日私の事務所の前を散歩するおじさんがいます。彼は子供の時から病弱で仕事も持たずに、一人で暮らしていました。私は彼が誰からも気に留められていないように感じていたので、とても気になっていました。彼はいつも私の事務所をチラッと見ながら通るので、私は彼の中におられるイエス様が私を待っておられるように感じていました。先日、私が事務所の前で仕事をしていると私をジーッと見たので、思い切って挨拶を試みました。ごくわずかな時間でしたが、彼と話をすることができました。何日か後に彼はいつものように事務所の前を通りながら、私にちょっと照れくさそうに手をあげて挨拶し、通り過ぎていきました。そのときの彼の優しい嬉しそうな顔が、私の心に残って、静かな喜びで満たされました。本当にイエス様との出会いだったと感じました。仕事のことで悩んでいる最近の私に、本当に価値があることは何かを、神様が教えてくださったような経験でした。(沖縄県 A)

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

# 「キリスト教との最初の出会い」 7

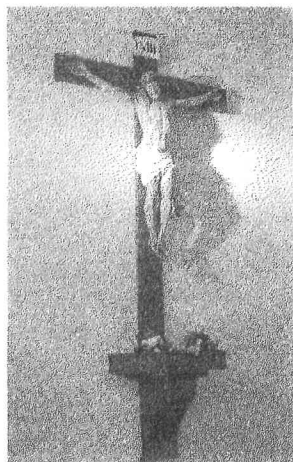
佐藤貴子

私の教会との出会いは幼稚園時代。家から歩いて10分程の教会が敷地内にある幼稚園に通ってました。私が年長組に上がる頃、幼稚園の庭の石階段の上に白いマリア様の石像が新しく献堂されたことが印象深く残ってます。マリア様のベールを被った優しい姿が大好きでした。母は幼い私がよく泣いたり、我が儘を言うと、「マリア様のように優しい心になれるようにお祈りしましょう。」と言ってました。でもイエス様の十字架に架けられたお姿は、時々怖いと思ってしまった。母に「どうして神様の子なのにイエス様は十字架に磔にされたの？」と聞くと、「イエス様は何も悪いことをしていないけど、十字架に磔にされたの。でもイエス様は人を恨んだり憎んだりしないのよ、神様の子だからね。」その言葉に、酷いことをされても、恨んだり憎んだりしないなんて、イエス様って凄いなあ。でも本当かな。心の中では、恨んだりしなかったのかなあ。時々幼心に懐疑心を持ち、十字架のイエス様の前で「本当はイエス様は酷いことをされてその人たちを嫌いなんでしょう。どうして苦しい、酷いと叫ばないの？」と問いかけました。私の中にある悪魔の心だったのかな。でもマリア様に見守られている自分が好きでした。だからなのか、卒園前に、円形脱毛症になってしまい、寂しさと不安が心の中にあっただのでしょうか。小学校に入ると、他の幼稚園、保育園から来た子はイエス様のことを知らない子ばかり。えっ、「イエス様を知らないの？」その時改めて教会のある幼稚園に行ってた自分が誇らしかった。その後成長していくにつれ、イエス様のこと、母に言われた「ひどいことをされても憎んだり恨んだりしない。」という言葉は何かある度に思い起こしてました。そして世の中にはイエス様と逆の人が多いのだと。教会の脇を通る度、中にいるイエス様マリア様の暖かさ優しさを思い、教会は愛の象徴なのだ。また暖かい所に行きたくて、高校は私立のカトリック女子高へ行かせてもらいました。何故かマリア様のいるところって暖かい。イエス様のお姿も幼少の頃の思いとは変わっ



てました。高校のシスターのお話しする「イエス様は愛で柔和な理想的な方であた方もそういう方に守られているのですよ。」という言葉に感動しました。主の祈りから始まり終わる学校生活は穏やかな雰囲気、先生方も素晴らしい方が多かったです。その頃図書室にあった「小さき花のテレジア」の本に目がとまりました。若くしてなくなった修道女、模範的な姿が心に強く残りました。そんなゆっくりとした高校生活も卒業を前になると哀しくなってしまう。マリア様のいる安心感からまた遠のいてしまうと。世の中に出てイエス・キリストを知らない人達と接する中で感じる寂しさ、打ちのめされたり傷ついたり。「イエス様は私を守ってくれるはずなのに、守ってくれない。」世の中に出るとカトリックの教えは何の意味もない、私はずっと暖かい所にいたいのに。世間に染まって行く私にイエス様は遠くなったようでした。もう私はイエス様を思ったり、守ってもらう価値などない…。ある時「悔い改めなさい。」という暖かい問いかけを感じました。「悔い改めなさいってどういうこと。何故そんなことを言うの？」でもその時感じたのは光。イエス様だった。叱るでもなく威圧的でもない暖かさ。落ちた状態になった私に光を与えてくださった。それから私が洗礼を受けるまでに8年の歳月がありましたが。今思うと洗礼をうける迄にイエス様にいろんな問いかけをしてきて、今も問いかけの日々なのですが。唯一つ、洗礼のお恵みは光を与えられたこと。神の光＝イエス様。どん底にあっても光がある。その光で生きていけると。

(松が峰教会)



世を離れ人を忘れて我は今深き己の奥底にすむ

我が心深き底あり喜びも憂の波もとどかじと思ふ

西田幾多郎

寸心

# カルメル会の企画案内





# 司祭叙階 50 周年記念



チプリアノ・ボンタツキヨ神父

アルマンド・ピアジニ神父

2009 年 4 月 19 日 カトリック金沢教会

# 祝 カルメル会金祝・銀祝者のご挨拶

## 金祝

### 感謝

司祭叙階 50 周年を迎えて、私の思いは“感謝”の一言に尽きます。

主の忍耐強さ、その憐れみの深さに感謝。

使い勝手の悪い、この私を、司祭に選び、守り導いてくださった主に感謝。

また、多くの方々にも感謝。

祈ってくださった方々、私を支え、励まし、私の力不足を補ってくださった多くの方々、その中で、すでにこの世を去った方も多く、彼らを忘れることができません。

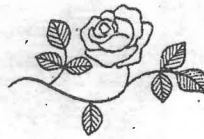
皆様のお祈りのおかげで、また、皆様を通して、主がこの 50 年間、私を守り、導いてくださったことを、心から感謝しております。

主に感謝、皆様にも感謝。

チプリアノ ポンタッキョ



チプリアノ・ボンタッキョ神父  
カトリック金沢教会主任司祭



アルマンド・ピアジニ神父  
カトリック金沢教会助任司祭

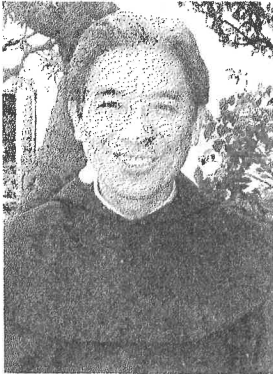
## 叙階 50 周年に寄せて

叙階 50 周年という日を迎え、司祭になった日の思い出がまるで昨日のことのよう頭に浮かんで来る昨今です。おそらく自分にとって、その日は人生の中で一番印象深いものだったと思います。自分でも信じられないくらいの喜びと平和で心が満たされ、まるで生まれ変わったような感覚でした。少年時代には『自分も神父様やもしかしたら司教様、万が一でもパパ様になれるかなあ』と無邪気に夢見る私でしたから。現在、叙階からこの 50 年間をカルメル会司祭として歩んで来た道を振り返ってみると、反省することも多くありますが、よく頑張ったなあと思いながら、導いて下さった神に心から感謝する日々です。自分がこの長い年月、何をしたかを考えるよりも、これからの人生の締めくくりを、どう迎えていけばいいかを考えるのが大切だと思っています。今は亡き両親をはじめ、支えて下さり、協力して下さった多くの皆様に天からの豊かな恵みと祝福を心から祈ります。

聖母の被昇天のアルマンド・ピアジニ神父

叙階 25 周年を迎えて

この度、叙階銀祝を記念させていただき、これまでを支えて下さった多くの方々へ心からの感謝を捧げながら、この25年間の歩みを振り返り、新たな歩みを模索する機会をいただいております。「土の器」に注がれた“いのちの恵み”の豊かさにあらためて驚いています。叙階の恵みは、教会においてだけではなく全ての人々が神と出会うために開かれた恵みの泉でもあります。多くの若者たちの司祭職への召命を念じながら、自らの司祭職を全うしていくことができますようにと、心から願っています。  
三位一体の慈しみの神と皆様への感謝のうちに



三位一体のマリア・アウグスチヌス中川 博道 o.c.d.  
上野毛修道院長  
カトリック上野毛教会主任司祭



チプリアノ神父・アルマンド神父金祝ミサの様子 (2009年4月19日)



## 感謝とお礼～誓願 25 周年に寄せて

三上和久 OCD

男子跣足カルメル会管区長

とにかく初めは「誓願 25 周年おめでとうございます」と言われてもピンと来ずに「???'といった感じでした。ほとんど「誰の 25 周年？」ってくらい本人は完全に忘れていた、というか気付いていなかったというのが事実です。まだまだ若いつもりで自分とは無関係な出来事という意識だったんです。それが・・・

確かにもう 50 歳ですし、(サベリオ・カニストウラ新総長も 50 歳と聞いてびっくり!) 入会したのは 1982 年だったなあと思うと結構歳月が流れたことを実感させられます。(でも、チプリアーノ神父さまやアルマンド神父さまは私が生まれた年に叙階されたんですよ) 特に、歩いていて平らな所ですみずいたりするとおもいきり歳を感じます。

残念なことに肉体年齢と人間的成長や霊的成長が比例しないという人類の共通点が当然私にも当てはまり(せめて反比例しないでほしいと願うばかりですが)、肩を落とすことの多い今日この頃です。25 年分の成長を実感できればまだ単純に自分としても 25 周年を祝えるのかもしれませんがなかなかです。多分、50 年経とうと 60 年経とうとこの世の人生とはそんなものかも知れません。あるいは、そうでなければならないのかも知れません。

それでも結局のところ破綻をきたさないのは多くの方々の目に見える助けと目に見えないお祈りのおかげであり、また神さまの憐れみによるものと感謝の念にたえません。また本人の心情はさておき、今回いろいろな所で多くの方々に祝っていただき本当にありがとうございました。この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。みなさまのカルメル会とカルメル会士に対して示して下さる深い愛徳と広い心にはいつも頭の下がる思いです。

これからも私のできる場で私にできることで、神さまがすべての人に与え私にも与えて下さった福音的使命を果たして行ければと願っています。そして頑張って誓願を守るのではなく、頑張らずに曖昧に守るのでもなく、自然に誓願を生きることができるよう。

そしてみなさまの上にも神さまの恵みが豊かに注がれますように。



上野毛靈性センター '09年5月～10年3月黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

## 1. 一泊聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日16時) 大瀬高司神父

- ③ 5月16日～17日  
 ④ 7月25日～26日  
 ⑤ 9月 5日～ 6日  
 ⑥ 11月28日～29日  
 ⑦ 2010/ 1月23日～24日

※①、②終了

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

- A 8月10日(月)夕食～ 8月19日(水)朝 中川博道神父  
 B 8月22日(土)夕食～ 8月31日(月)朝 松田浩一神父  
 C 11月 9日(月)夕食～11月18日(水)朝 松田浩一神父  
 D 12月26日(土)夕食～ '10/1月4日(月)朝 中川博道神父

## 3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

- 5月28日 キリスト者の日々の祈り 松田浩一神父  
 7月 9日 イエスは祈られた 中川博道神父  
 9月10日 苦しみの中の祈り 今泉 健神父  
 11月26日 ミサの祈り 今泉 健神父  
 2010/ 1月28日 主の祈り 松田浩一神父

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日 10時～16時)

- 6月19日 カルメル会の聖人達とイエスのみ心 松田浩一神父  
 10月 9日 アピラの聖テレジア 今泉健神父  
 12月11日 十字架の聖ヨハネ ベルナルド神父  
 2010/2月12日 聖エリア 中川博道神父

## 5. 「社会人のための心の休息」— 日常のキリスト教霊性を求めて—

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時)

新しい企画

松田浩一神父

- ② 5月 8日(金)～ 9日(土)
- ③ 6月19日(金)～20日(土)
- ④ 9月11日(金)～12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)～24日(土)
- ⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)
- ⑦ 2010/ 1月29日(金)～30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)～27日(土)

※①終了

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

## 6. 青年黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

5月29日(金)～31日(日) 17時受付

11月21日(土)～23日(月) 16時受付

## 7. 召命黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日(土)～ 5日(日) 15時受付

## 8. 祭日のミサに与かるために

【【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

12月24日(木)～25日(金)《講話なし、夕食なし》

## 9. 特別黙想会 伊従信子NDV

5月22日(金) 20時～24日(日) 16時(22日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「聖霊を友に」

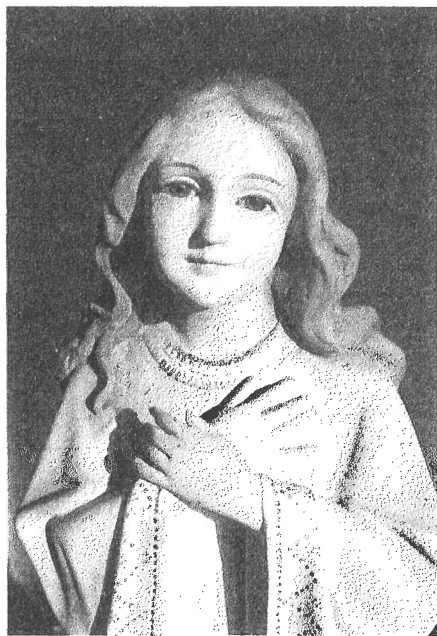
10月10日(土) 20時～12日(月) 16時(10日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「さらに固く信じさせてください」

10.待降節黙想会

12月4日（金）20時～6日（日）16時（4日は夕食を済ませてご参加ください）

指導：カルメル会士



幼いマリア像（聖テレジア修道院・黙想）

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの  
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



# 「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

\*どなたでも いつからでもご参加ください\*

## 2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

了 1月20日	了 1月23日
了 2月17日	了 2月20日
了 3月17日	黙想会の為、3月の勉強会はございません <del>下記の案内をご覧ください</del>
了 4月21日	了 4月24日
5月19日	5月22日
6月23日	6月26日
7月21日	7月24日

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>

## 木曜 黙想会

一般黙想

2009年 3月12日

テーマ：「共に苦しむ神」了

7月 9日

テーマ：「イエスは祈られた」

## 金曜 黙想会

カルメルの聖人

2009年 4月17日

テーマ：「御復活のラウレンシオ」了

2010年 2月12日

テーマ：「聖エリア」

対象：どなたでも

時間：10時～16時

指導：中川博道師

費用：3,500円

場所：聖テレジア修道院（黙想）

お申込みは下記＜聖テレジア修道院（黙想）＞へ お願いいたします

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

## キリスト者の日々の祈り

わたしたちキリスト信者は祈りに招かれています。聖パウロは言います。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなた方に望んでおられます」(1テサロニケ5:16~18)。祈りの体験をしてみませんか。

2009年5月28日(木曜日) 10時~16時

場所：上野毛聖テレジア修道院(黙想)

指導：松田浩一 神父 (男子カルメル修道会)

会費：3500円

持参するもの：ノート、ロザリオ、筆記のみ



お問合せ・お申込みは TEL, FAX, E-mail, ハガキにてお願いします。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

# 『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

## 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴を行います。
- メソッドの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

## 【開催日】

- ① 2009年 4月17日(金)～18日(土)了
- ② 5月 8日(金)～ 9日(土)
- ③ 6月19日(金)～20日(土)
- ④ 9月11日(金)～12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)～24日(土)
- ⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)
- ⑦ 2010年 1月29日(金)～30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)～27日(土)

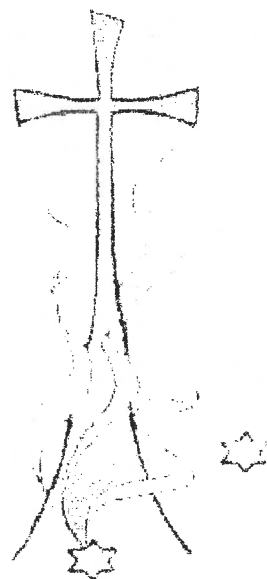
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764  
E-Mail: mokusou@carmel-monastery.jp



# C.Y.C. (カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

## カルメル山の聖母マリアと スカプラリオ

イスラエルのカルメル山に、隠修士たちが集まって、一つの会則の下に共同生活を始めた修道会がカルメル修道会ですが、最初の修道会の名称が『カルメル山の至聖童貞マリアの兄弟会』となっていました。カルメル会は常に聖母マリアとの親しい生活と崇敬を持っています。伝説により、聖母よりこの修道会にスカプラリオ（肩衣）が与えられ、聖母の御保護の印を身に着けています。今回のC.Y.C.では、『カルメル山の聖母マリア』を皆さんに紹介し、賛美するものです。

日時：5月16日（土）19:00～21:30

対象：18歳以上 35歳までの 青年男女

スタッフ：松田神父・古川神学生

場所：上野毛教会 信徒会館1階ホール

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分

（世田谷区上野毛2-14-25）



### プログラム

- 19:00～ 始めの祈り・『カルメル山の聖母マリア』  
と『スカプラリオ』についてのお話し
- 20:00～ 休憩
- 20:10～ 聖母マリアとわたしたち
- 21:00～ 寝る前の祈り（修道者と共に）
- 21:30 解散

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメルの霊性（スピリチュアリティ）の中で、祈りと分か合いのひと時をすごす集いです。

☆ 申込は不要です。お問合わせは、FAXかE-mailで住所、氏名、年齢をお書きの上、下記まで。

※各種のご案内は、ホームページからご覧いただけます。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>

カルメル会 カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 (松田神父)  
[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp



# 聖書深読黙想会

## 〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
 指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
 聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交  
 わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、  
 福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

- \* 日時：2009年5月16日（土）18時～17日（日）16時
- \* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- \* 指導：大瀬高司師（カルメル会司祭）
- \* 会費：¥7000
- \* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

## 青年黙想会

# やさしい心の友、聖霊来てください！

5月31日（日）に教会は聖霊降臨の大祭日を迎えますが、その典礼の中に「聖霊の祈り」があります。「聖霊来てください。・・・やさしい心の友、・・・」。聖霊降臨の日に異なった言語、異なった考えを持った人々に、神の救いの言葉によって、お互いを結び合わせた神です。いっしょに聖霊を祈り求めるひと時をもちませんか。

2009年5月29日（金曜日）18時～

5月31日（日曜日）16時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

対象：青年男女（35歳まで）

指導：中川博道 神父 松田浩一 神父

会費：一般 10,000円 学生 5,000円

持参するもの：ノート、筆記、パジャマ、洗面用具、  
そのほか各自必要な物

定員：20名

参加をご希望の方は、ハガキ・FAX・E-mailのいずれかで  
住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会名をご記入いただき  
5月23日（土）までに、下記宛にお申込みください（必着）

（お問合せ・お申込み先）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Fax 03-3704-1764

E-mail: ~~mok~~kusou@carmel-monastery.jp

# カルメル・ユース・クラブ

キリスト者青年の集い (18歳~35歳、青年男女)

1. 5月16日 (土) 19:00~21:30

## テーマ

**カルメル山の聖母マリアと  
スカプラリオ**

イスラエルのカルメル山に、隠修士たちが集まって、一つの会則の下に共同生活を始めた修道会がカルメル修道会ですが、最初の修道会の名称が『カルメル山の至聖童貞マリアの兄弟会』となっていました。カルメル会は常に聖母マリアとの親しい生活と崇敬を持っています。

スタッフ：松田神父・古川神学生

2. 5月23日 (土) 19:00~21:30

## テーマ

**み言葉の分かち合い**

5月24日の『主の昇天』のみ言葉を『聖書と典礼』のリーフレットを用いて分かち合います。

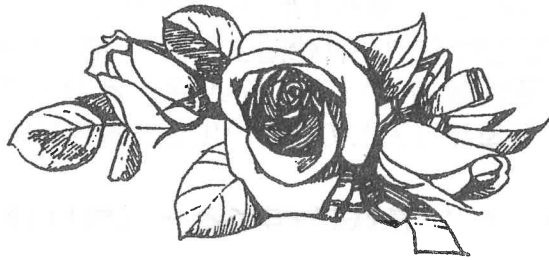
スタッフ：中川神父・古川神学生

場 所： カトリック上野毛教会 信徒会館1階ホール

☆ 申込は不要です。お問合わせは、FAXかE-mailで住所、氏名、年齢をお書きの上、下記まで。

カルメル会 カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 (松田神父)

[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp



# — 特別黙想会 —

《わたしは神をみたい》

## 聖霊を友に

2009年5月22日（金）20時～24日（日）15時

わたしは父が約束されたものをあなたがたに送る。

高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。

（ルカ 24・49）

聖霊は わたしの友、  
わたしの光、わたしの師  
使徒として生きるわたしたちは  
聖霊とより親しく  
歩まなければなりません

—幼きイエスのマリー・エウジェヌ、ocd—



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
  - 持参品： 新約聖書、小冊子「聖霊を友に」（黙想の家で購入できます）  
筆記用具、バジヤマ
  - 参加費： ￥12000
  - 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）  
158 - 0091 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込 Tel03-5706-7355 FAX・03-3704-1764 Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

\*\*宇治聖テレジア修道院 (黙想)\*\*

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

5月 9日 (土) ~ 10日 (日)	新井延和神父
7月 4日 (土) ~ 5日 (日)	九里彰神父
9月 5日 (土) ~ 6日 (日)	新井延和神父
11月14日 (土) ~ 15日 (日)	渡辺幹夫神父

一日 (午前10時から午後4時)

6月13日 (土)	新井延和神父
10月31日 (土)	九里彰神父
12月12日 (土)	新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

5月27日 聖 霊	長岡幸一神父
6月17日 聖パウロ宣教師	九里彰神父
7月15日 カルメル山の聖母マリア	九里彰神父
9月23日 十字架の神秘	新井延和神父
10月14日 完徳の道	渡辺幹夫神父
11月 4日 聖なる冒険	Sr.パウリン
12月 9日 暗 夜	九里彰神父

3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月5日 (土) ~ 6日 (日)	九里彰神父
--------------------	-------

4. 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日 (水) ~ 10月1日 (木)	伊従信子師
-----------------------	-------

5. 一般信徒のための黙想 (午後5時～午前9時) ※修道者も参加可

4月29日 (水) ~ 5月2日 (土)	渡辺幹夫神父
----------------------	--------

6. 召命黙想会 (午後4時～午後5時) 対象：40歳以下の青年男女

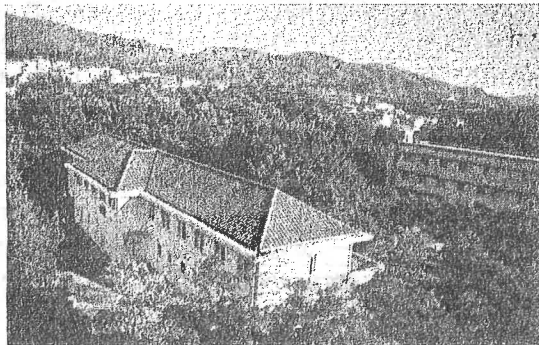
5月5日 (火) ~ 5月6日 (水)	渡辺幹夫神父
---------------------	--------

7. 奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（日）～8月11日（火）	渡辺幹夫神父
8月18日（火）～8月27日（木）	九里彰神父
10月17日（土）～10月26日（月）	九里彰神父
12月26日（土）～1月4日（月）	新井延和神父

8. 青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）

11月8日（日） 九里彰神父



写真…宇治黙想の家

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# 「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2009）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み”などなど一見“ネガティブ”（闇）と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはず。この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一泊静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第1回	1月31日(土)	イエス・キリストの幸い宣言	松田浩一神父 (上野毛修道院)
第2回	2月24日(土)	私は弱いときにこそ強いー弱さの中の光ー	中川博道神父 (上野毛修道院)
第3回	3月28日(土)	暗夜における信仰・希望・愛 十字架の聖ヨハネ	九里彰神父 (宇治修道院)
第4回	4月18日(土)	喜びを生きる	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月23日(土)	聖霊に満たされて生きる	今泉健神父 (上野毛修道院)
第6回	6月20日(土)	苦しみの中における喜びと平安 三位一体のエルサベツ	九里彰神父 (宇治修道院)
第7回	7月11日(土)	苦しみの中の祈り	今泉健神父 (上野毛修道院)
第8回	9月21日(月)祝	幼いイエスの聖テレーズの悲しみ	新井延和神父 (宇治修道院)
第9回	10月17日(土)	アヴィラの聖テレーシアの靈性からの自由と希望	Sr.ベアトリス (宣教カルメル修道院)
第10回	11月28日(土)	暗夜に輝く神のみ言葉：恵まれた方、聖マリア	松田浩一神父 (上野毛修道院)

了  
了  
了  
了

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレーシア幼稚園隣接
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- \* 定員 約30名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:40～ 講話【1】
  - 12:00～ 昼食
  - 13:00～ 赦しの秘跡または短い面接
  - 13:30～ 講話【2】
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会
  - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市中東区熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825  
 一泊静修係 〒465-0058名古屋市中東区貴船3-2115 小林 厚・晃子 TEL 052-701-3685



## 2009年度名古屋聖書深読会

第1回 5月16日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

第2回 10月 3日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

\* 参加費 ￥1000

\* 持ち物 聖書・ノート・筆記具・昼食等

\* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 原則として、定員は21名とし、申し込みは、1週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

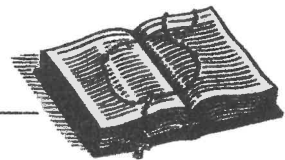
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

## カルメル会出版物のご案内

### 雑誌「カルメル」NO331 (2008年冬号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (12) …高橋正行  
マリアの旅 (2) —マリアと共に聴く …中川博道  
十字架のヨハネ講話 (13) …フェデリコ・ルイス  
今日の歌 (2) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (8) …伊従信子  
エディット・シュタイン「カルメル会への道程  
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ」(3) …須沢かおり  
「小さい道」の巡礼者 (3)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (23) …伊従信子  
現代に生きる「預言者」のころ …谷口正子  
愛の断章 (10) …奥村一郎

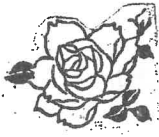
### 雑誌「カルメル」NO332 (2009年春号)「今日の靈性」

- 「馬屋」の靈性 (1) …高橋正行  
マリアの旅 (3) —外へ出ていく旅、内なる神秘に向かう旅 (1) …中川博道  
「ザアカイの回心」 …九里 彰  
今日の歌 (3) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (9) …伊従信子  
エディット・シュタイン「カルメル会への道程  
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ」(4) …須沢かおり  
「小さい道」の巡礼者 (4)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (24) …伊従信子  
許し、許されるということ …森 みさ  
愛の断章 (11) …奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356)



## 5月は聖母の月です

ロザリオの祈りを唱えましょう

2009年5月

ロザリオの祈りは、イエス・キリストの誕生を黙想しながら、私達一人ひとりの母である聖母マリアに心を合わせて祈る信心です。5月はマリアさまに捧げられた月です。主日のミサの前に一連と、毎週金曜日の10時から 喜び、光、苦しみ、栄え、の神秘を順番に黙想してロザリオの祈りを唱えたいと思いますので皆様どうぞ、ご参加下さい。

☆ 主日のミサ (7:00 8:30 10:30 18:00)  
各ミサの5分前一連を祈ります。

☆ 毎週金曜日

時間：10:00から始めます。 上野毛教会聖堂

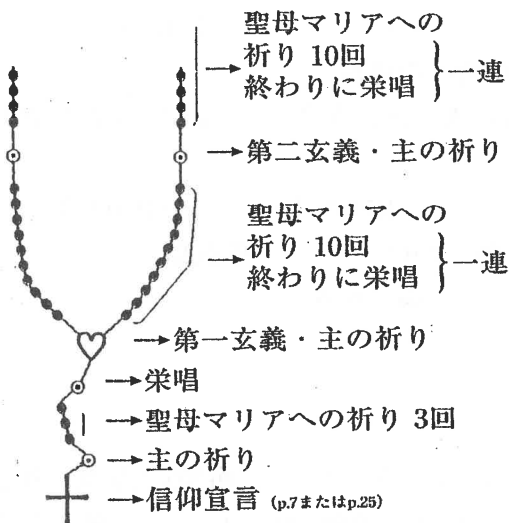
5月 1日 (金) 9:30 終了後 初金ミサ

8日 (金) 10:00

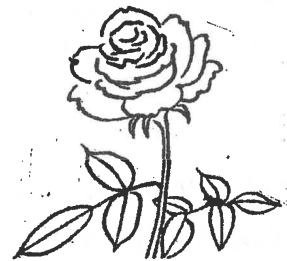
15日 (金) 10:00

22日 (金) 10:00

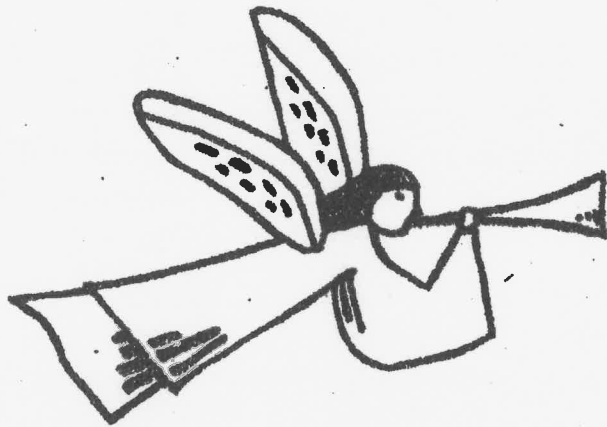
29日 (金) 10:00



ロザリオとは、バラの冠  
という意味で、聖母マリア  
への祈りひとつを一輪の  
バラとみなすところから  
きています。



# 諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父・キリスト教講座

ノートルダム教育修道女会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ



## 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。  
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

### ★ 2009年度 ★

了	P1	09・01・10 (土)	2時から	01・16 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K1	09・01・28 (水)	2時から	02・03 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	Y1	09・02・18 (水)	2時から	02・24 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
了	K2	09・03・04 (水)	2時から	03・10 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	P2	09・03・21 (土)	2時から	03・27 (金)	2時から	兵庫・売布・女子ご受難会
了	F1	09・04・25 (土)	2時から	05・01 (金)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	I1	09・05・08 (金)	2時から	05・14 (木)	10時まで	沖縄伊江島・土の宿
	M1	09・05・22 (金)	2時から	05・28 (木)	2時まで	盛岡・白百合
	K3	09・06・08 (月)	2時から	06・14 (日)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N1	09・06・24 (水)	2時から	06・30 (火)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F2	09・07・10 (金)	2時から	07・16 (木)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	Y2	09・07・22 (水)	2時から	07・28 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	O1	09・08・23 (日)	2時から	08・29 (土)	2時まで	長野・大鹿村・草々庵
	P3	09・09・12 (土)	2時から	09・18 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	Y3	09・10・07 (水)	2時から	10・13 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	K4	09・10・21 (水)	2時から	10・27 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N2	09・11・02 (月)	2時から	11・08 (日)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F3	09・11・16 (月)	2時から	11・22 (日)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	P4	09・11・28 (土)	2時から	12・04 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	09・12・09 (水)	2時から	12・15 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会



# 2009 年度祈りの集いのご案内

## 聖パウロの年

通年のテーマ：

聖パウロについて レクツィオ ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前 10 時～午後 2 時半）



- 了 1月 8日 聖パウロの改心（使徒言行録9:1...）
- 了 2月 12日 聖パウロの宣教派遣（使徒言行録13:1...）
- 了 3月 12日 聖パウロの宣教における苦難（2コリント4:7...）
- 了 4月 23日 聖パウロのアテネにおける宣教（使徒言行録17:16...）
- 5月 14日 聖パウロのコリントにおける宣教（使徒言行録18:1...）
- 6月 11日 聖パウロの旅
- 7月 9日 キリストの使徒であるパウロ
- 9月 10日 聖パウロの書簡 1
- 10月 8日 聖パウロの書簡 2
- 11月 19日 聖パウロの逮捕（使徒言行録21:27...）
- 12月 10日 聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

園田 善昭神父

ダニエレ サルツィ・サルトリ神父

マリア デ・ジョウルジ シスター

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）



## ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール どなたでも。  
聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

## ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、  
キリスト教の中心テーマを探求します。

## ●土曜アカデミー

下記の土曜日 9時30分～11時、また11時15分～12時45分、  
岐部ホール4階404、2つの講座・セミナーでキリスト教関係の思想・哲学  
神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、  
プログラム等に関してH.P. (文末)を見よ。  
5月9日、16日、23日、30日、6月13日、7月4日

## ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分 木曜日 18時～20時30分  
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。3回座り、間に講話が  
あります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

## ●接心

(秋川神冥窟) 6月26日(金) 20時30分～28日(日) 13時  
一泊2400円程度 8月 8日(土) 20時30分～15日(土) 7時30分  
(宝塚市) 6月20日(土) 13時 ～21日(日) 16時

## ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(但し、8月全休、休日休)

## ●祈りの集い

下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 SJハウス第5会議室  
黙想、講話、ミサがあります。5月23日、6月13日、7月11日  
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分 Kultourハイム1階右小聖堂

## ●黙想

【会社帰りの黙想】 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。(但し祝日、8月11日は休)  
8月25日は、上智大学 Kultourハイム聖堂。  
12月25日(金)はクリスマスの黙想(予定)。

【お昼の黙想】毎月第1・3火曜日 10時40分～11時55分 聖イグナチオ教会  
但し祝日休、8月4日休。8月18日クルトゥルハイム聖堂（上智大学）

【水曜日】 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂、  
どなたでも（但し、8月全休、祝日休）

【通う霊操】 8月22日（土）～30日（日） 18時～20時45分  
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●黙想会 6月6日（土）10時～7日（日）15時、9月12日（土）10時～13日（日）  
15時（東村山）

●アガベ会 下記の日、説明会（13時30分）と集い、ミサ（14～18時）。  
上智大学内SJハウス第5会議室、4月19日（日）、6月14日（日）

●クリスマス会 12月19日（土）16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時  
岐部ホール（予定）。要申し込み。

クリスマスのミサ 12月23日（水）14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

※詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認下さい。



問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授）  
102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス  
電話 03-3238-5124 {直通}、5111 {伝言}、FAX 03-3238-5056  
[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/index.html](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html)

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2009年～2010年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

- 5/ 8 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/15 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/22 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/29 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 6/ 5 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/6～7 黙想会

## リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2009年～2010年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

- 5/19 「倫理の基礎付け」 人間以外のものの意義—世界の使用と聖化
- 6/ 2 創造・歴史・救い—イエスという中心
- 6/6～7 黙想会
- 6/16 「倫理的行為」 行為の規範—人間の本性と神の呼びかけ
- 6/30 自己実現—責任と自由

### 《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階  
アルペホール

電 話 03-3263-4584

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- 了 ① 08年12月27日(土)～09年1月4日(日)
- 了 ② 09年2月20日(金)～2月28日(土)
- ③ 7月23日(木)～7月31日(金)
- ④ 9月1日(火)～9月9日(水)
- ⑤ 10月17日(土)～10月25日(日)
- ⑥ 12月27日(日)～10年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- 了 ⑦ 1月16日(金)～1月18日(日)
- 了 ⑧ 2月6日(金)～2月8日(日)
- 了 ⑨ 2月20日(金)～2月22日(日)
- 了 ⑩ 4月3日(金)～4月5日(日)
- 了 ⑪ 4月24日(金)～4月26日(日)
- ⑫ 5月8日(金)～5月10日(日)
- ⑬ 6月12日(金)～6月14日(日)
- ⑭ 6月26日(金)～6月28日(日)
- ⑮ 10月2日(金)～10月4日(日)
- ⑯ 10月23日(金)～10月25日(日)
- ⑰ 11月6日(金)～11月8日(日)

⑱ 12月 4日(金)～12月 6日(日)

⑲ 12月 11日(金)～12月 13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C. 研修と祈り：【自己の成長と祈りへの道】

(20) 5月 19日(火)～5月 24日(日)

(21) 9月 29日(火)～10月 4日(日)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 講話 黙想

(22) 5月 27日(水)～6月 3日(水) 九里 彰 師(加州会)

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・ブロードニヤック(メノール宣教師) 安井 昌子(ノートルダム教育修道女)  
菊池 陽子(ノートルダム教育修道女) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順15名です。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。  
問い合わせは、電話 または、Eメールをご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

# 一日黙想会

さわやかな聖母月の日

心を天に上げ、静かなひとときを…

ご一緒にませんか

日時 5月23日(土) 10時～16時00分

(受付は9時30分より、16時5分までです)

場所 コングレガシオン・ノートルダム

調布修道院

(京王線調布駅南口より徒歩20分、寺内は  
タクシーで5分、調布市下石原3丁目の  
マルカワタの雑居と同じ敷地内です。)

テーマ 「みことばを味わい、

みことばを生きる」

講師：幸田 和生 司教 (東京教区補佐司教)

参加費：2,000円 (昼食・おやつ代を含む)

持ち物：筆記用具、あれば旧約新約聖書

対象：男女年齢を問わず、どなたでも

定員：80名

※ お申し込みは5月16日(土)までに

Tel. 042-482-2012

調布修道院へお願いします

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を  
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年5月16日(土)

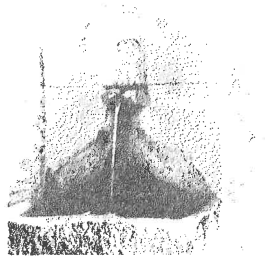
\* 次回の予定 2009年6月13日(土) \*

講話 伊従信子

午後2時 ～ 午後5時30分位まで

講話・祈り・分かち合い

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

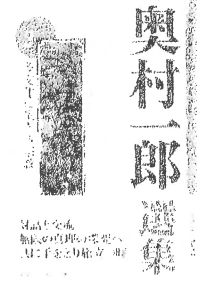
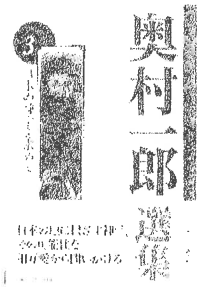
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

# 奥村一郎選集（全9巻）

## 刊行完結

奥村一郎 Okumura Ichiro • カルメル会司祭  
 1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。



四六版・上製・平均240頁

各巻定価 2,100円  
 (オリエンズ宗教研究所)

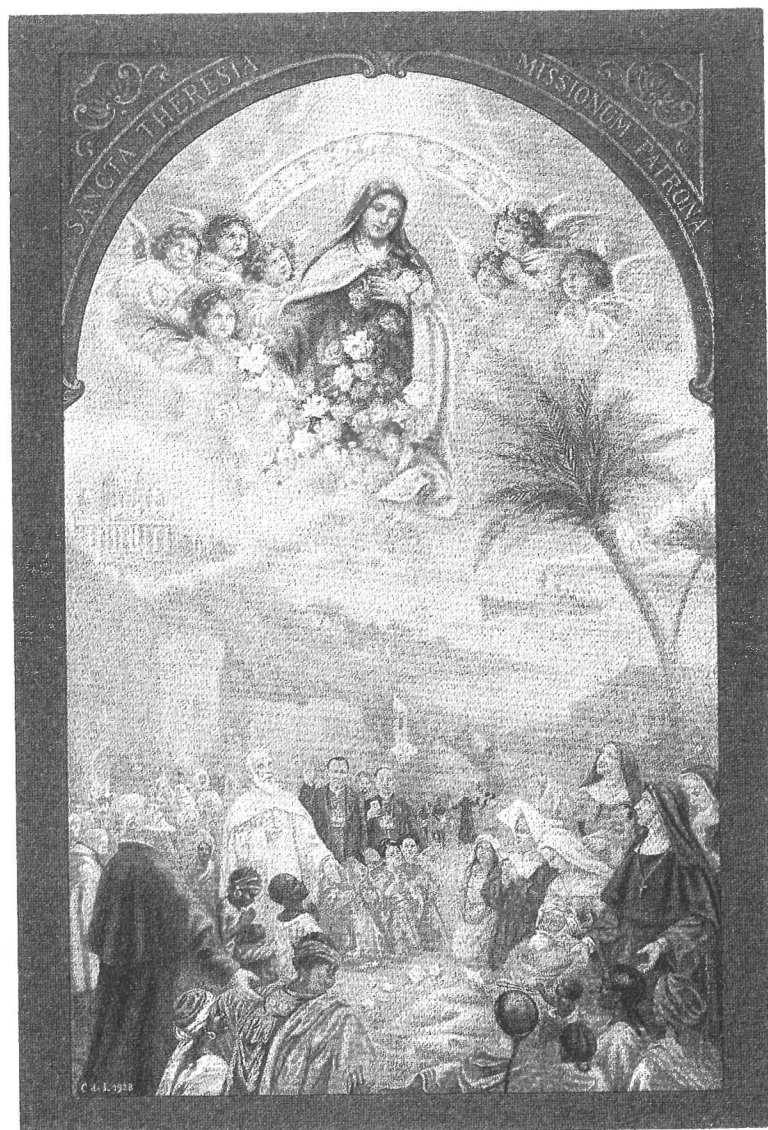
### 奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛  
 (解説) 西村恵信
- 第2巻 多文化に生きる宗教  
 (解説) 橋本裕司
- 第3巻 日本の神学を求めて  
 (解説) 小野寺功
- 第4巻 日本語とキリスト教  
 (解説) 阿部仲麻呂
- 第5巻 現代人と宗教  
 (解説) 鶴岡賀雄
- 第6巻 永遠のいのち  
 (解説) 八木誠一
- 第7巻 カルメルの靈性  
 (解説) 高圓泰子
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉  
 (解説) 高橋重幸
- 第9巻 奉獻の道  
 (解説) 宮本久雄



# リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

## 記念御絵



\* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにてサイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

### 》投稿規程《

- \* 締切り：原則的に毎月10まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- \* 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)宛にお願いいたします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
  - ④ 連絡先等。
- \* 寄稿連絡は、<sup>くのり</sup>九里 彰神父宛にお願いいたします。i住所が変わります!

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院

Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

**YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください!!**

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

## 『靈性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

### 「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

\* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。

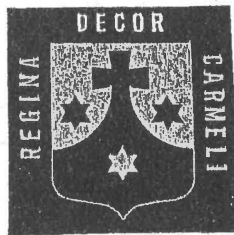
### 編集後記

すると、一同は聖霊に満たされ、“靈”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。 (使2:3-4)

聖霊がくだると、だれもが外国語をぺらぺら話せるようになるのであれば、外国語学校の経営は成り立たなくなるだろう。わざわざお金と時間を使い、苦勞して外国語を学ぶ必要はない。家において、聖霊がくだるのを寝ころんで待っていれば、それでいい。しかしこう考えてくると、外国語をぺらぺら話せないキリスト者には、聖霊がまだくだっていないのかということになる。また聖霊がくだった時、弟子たちはみな祈っていたから、彼らには祈りが足りないのだということにもなる。だが、どうもそうでもないようである。

「全世界に行って、福音を宣べ伝えなさい」というキリストの願いを實現するために、弟子たちは聖霊に満たされて、外国語で話した。弟子たちの中にはすでに外国語を知っていた者もいたであろうし、外国で育った者もいたであろう。急にキツネつきのようになって、外国語を話したのではないと思われる。

聖霊がくだるといふ話から、くだらない話をしてしまった。 (P. 九里)



## あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「6月号」製本日      5月26日（火）      上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係  
TEL 03・3704・2171